

「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」のある追求の存在する保育・生活・総合

1. 今までの取り組みの整理の視点

「保育・生活・総合」領域では、平成19年度より「こだわり」と「かかわり合い」のある追求がみられる活動のあり方について探る取り組みを行ってきた。さらに、2つの追求によって、学びや自分の成長を見いだしたり、確信したりできるような営みとして「ふりかえり」を大切にすべきだということがわかった。また、学習指導要領の改訂に伴い、「総合的な学習の時間」において自分の生き方を考えることを重視することとなり、平成20年度より「ふりかえり」のある追求も加えることとした。

そして、「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」の3つから次のような力が身につくと考え、実践を行ってきた。

本年度は、それぞれの活動でどのような「ひと・もの・こと」に出会い、どんな力が育成できている

「こだわりのある追求」	1ア	社会に対して興味・関心・疑問をもつ力
	1イ	自分の興味・関心のあること、疑問を解決・構想・実行する力
	1ウ	追求していく中で得る満足感・充実感
「かかわり合いのある追求」	2エ	他者とかかわる意欲・スキル
	2オ	他者とかかわる充実感、意味の理解
	2カ	目的に向かって他者とともに取り組む力
「ふりかえりのある追求」	3キ	社会とのかかわりを通して社会の中に自分があると認識する力
	3ク	自己有能感（追求したことへの満足感・達成感、自分ではできるという自信）
	3ケ	自己有用感（自分は誰かのために役に立っているという満足感や自信）

かについて、11年間を見通した学習の積み上げができてきているかを整理することとした。その際に、本学校園が教育研究ブロックで育成をめざす「社会力」が中等部の段階で身につけられるためには、「社会力」の中から何を重視するとよいか、またどのような学習の積み上げによって、どのような力を育てていけばよいかを、下記のように整理した。

社会力	社会の運営に積極的にかかわっていく力	1ア, 1イ, 1ウ	3ク 3ケ
	より良い社会をつくっていかうとする意志・意欲	2エ, 2オ, 3キ	
	より良い社会を考える構想力	1ア, 3キ	
	人とより良い社会を実現・実行する資質能力	1イ, 2カ	

2. 整理して見えてきた改善点

ただ、4歳から15歳までの子どもをとらえると、上のような社会力を身につけるためには、11年間をみすえ、それぞれの発達段階に沿った保育・授業を行う必要がある。そこで、どのようなひと・もの・ことに子どもたちが出会い、その中でどのような力を身につけると「社会力」が身についていくのかを整理するために、次のような発達段階の視点を明らかにし、それぞれの教育研究ブロックでめざす姿を明らかにすることとした。

	発達段階の視点
ひと・もの・こと	「ひと・もの・こと」と自分とのかかわりの変化を明確にする。
こだわり	どのようなことに興味・関心をもち、どのように実行・解決していくのかを明確にする。
人とかかわり	どのような人と出会い、どのような関係性をもつとよいかを明確にする。
仲間とかかわり	どのようなメンバーと、実行・解決をするためにどのようにかかわっていくのかを明確にする。
ふりかえり	どのようなふりかえりを行うとよいかを明確にする。

3. 整理した11年間の取り組み

整理したことをもとにめざす子どもの姿を、162ページの表のようにまとめた。

【初等部前期】

初等部前期の段階では、人とかかわりによって安心感を味わうことが1番重要であると考え。安心感があるからこそ、「ひと・もの・こと」と十分に満足のいくまでかかわり、これからの11年間で養

う豊かな学びや思いやりの心、集団の一員としての自覚へとつながるのである。

従って、「ひと・もの・こと」とのかかわりは、自分とのかかわりのあることが前提である。子どもが興味・関心をもって、何度でもこだわりをもって追求するには自分とのかかわりが、心理的にも空間的にも身近なものの方が粘り強い追求へとつながると考えられる。例えば、園庭に咲いているアサガオに対して、「アサガオさん、早く芽が出るようがんばってね」と対象を擬人化して、対象にひたりながらかかわっていく。きわめて主観的なかかわりの中ではあるが、そのようなかかわりでこそ子どもたちは五感を使って対象に働きかけ、満足感を得られるのである。数多くの「ひと・もの・こと」との出会いが子どもの「社会力」や様々な認識の発達を促すということも考えられるが、今述べたように、どれだけ子どもたちがそれらの対象にひたることのできるのかを見極めることが重要だと考える。

ただ、個々がそれぞれの対象とひたりながら追求を行うだけでは集団で活動をする意味がない。そこで、子どもの視野や経験が広がるように、意図的な環境の設定を行うこと、友だちとのかかわりを促すような働きかけを保育者が行ったり、5才のころより意図的な編成によって仲間とのかかわりの中で活動に取り組みせたりすること、日々においてふりかえりの中で個々の興味・関心のあることや遊びについて紹介し、集団の中で共有化を図ることが重要だと考えている。

言うまでもなく、生活科は教育活動全般である「保育」や領域である「総合的な学習の時間」と違い、教科として位置付いている。11年間を見通した場合に生活科の2年間で重要視することがいくつか整理して見えてきた。それは、

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">①「ひと・もの・こと」において、個々の対象をつなげて見たり考えたりして、いろいろな見方や気づきをすることができるようになること②自分の身近な人のために何かをする楽しさを味わう場の設定が必要であること③仲間とのかかわりにおいて、目的に向かって協力や協調を行う場が必要であること④自分自身や自分の生活について考える過程において、周りの「ひと・もの・こと」とのかかわりについて気づいていけること |
|---|

の4点である。

これらは、保育からの接続や子どもの実態を見ると、かなりのステップアップとなる。そこで、緩やかな接続を図った取り組みを本学校園でも行っている。学習指導要領の改訂に伴い、生活科を中心としたスタートカリキュラムの作成の重要性が述べられ、そのことをふまえての検討を行っている。

なお、保育と生活科で同じ「ひと・もの・こと」との活動が計画されている。例えば、1年生の「あきとあそぼう」の単元において、ドングリを使ったおもちゃづくりをする活動を行う。幼稚園でも同じ活動があるからといって、高度なおもちゃをつくらせたり、より多種多様な秋の実を集めさせようとしたりすることが妥当なのかどうかは子どもの実態や願いに従った方がよい。こだわりが芽生える場の設定さえあれば、子どもは自ずと学級内の子どもたちでかかわりをもって、おもちゃづくりや木の実の情報を教え合い、幼稚園とはまたちがったより質の高い気づきがみられる。それぞれの活動において成長するめざす姿を見極めていく必要がある。

【初等部後期・中等部】

初等部後期・中等部は、「総合的な学習の時間」である。本領域では、中等部において「社会貢献できる基礎を養う」ことをねらいとしている。そのために、11年間を見通した場合に次のようなことが重要であると考えられる。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">①追求を通して、自分は社会の中に存在していることに気づく段階を経て、その社会に自分を生かすことの意味を考える段階へと移行できるようにすること②自分のしたいことを実現するために計画・準備する段階から、社会に自分を生かすために、自ら企画したことを様々な条件の中から計画・実行し、ふりかえりながら再度実行する段階へと緩やかに移行できるようにすること③仲間と目的に向かって、よりよい方法などを自分の願いや思いを他者に伝えたり、他者から受けたりすることを通して協力・協調する段階から、葛藤を乗り越えて実現へと協働する段階へと移行できること |
|--|

の3点である。

このことから、初等部後期では様々な「ひと・もの・こと」に出会い、視野や経験を広げることが重要になってくる。子どもの実態として、特に小学3年生、4年生あたりになると、自分が経験したこと

のないような「ひと・もの・こと」へと追求の対象を移していくことがある。生活科からの移行をスムーズにできることから、3年生のはじめに、子どもたちが育てたい植物を育てたり、身の周りの（何度も行けるくらい近くの）動植物にかかわったりする活動（学校の周りでみつけた生き物を集めた水族館や食材を集めたお店など）を考えている。専門的な知識や技術をもつ方に指導してもらうことによって、学校の周りでみつけたものを活用できる活動を設定し、子どもの経験や視野が広がると思われる。

また、初等部後期の子どもは、少しずつひとのために何かをすることの楽しさを追求し始める。どちらかと言えば、まだ人のためにというより、自分の楽しさを追求するような意識である。その意識が、やがて人のために何かをするために自分を生かす、つまり社会貢献への基礎となると考える。3年生においてハクサイ等の栽培を通して、お世話になったひとに喜んでもらう活動を取り入れていく。それが、4年生において、高齢者や障害のある方とのかかわりへとつながっていくであろう。この活動によって少しずつ自分の楽しさの追求のなかで、ひとのために何かをするために自分を生かすことのよさを味わうこととなる。この経験を生かし、5年生では社会科や学校行事で知った松江のよさを観光客の方にガイドする活動を行う。観光客の方なので、出会いが一過性のもではあるが、ひとのために何かをするためには、自分の楽しさを追求するばかりではいけないということに気づくであろう。

中等部1年目の小学校6年生は、小学校の最高学年として委員会や体育会等の様々な行事において一部の子どものみがリーダー的存在となる。しかし、委員長など一部の子どものみがリーダー的存在となりがちである。本学校園では、5年生までの子どもをお客さんとして、6年生がお店を開く活動を行うことを通して、人のために何かをするための企画立案、準備、実行といった一連のサイクルを、どの子どもにも自分のこととして取り組めるようにしたいと考えている。しかし、人のために何かをする取り組みを行うことは容易ではない。1回では、失敗に終わってしまったり、一部の子どものみしか充実感を味わえなかったりしてしまうこととなる。何度も経験できることが必要である。また、心理的にも空間的にも身近な、下級生や教職員はイメージがもちやすい。小学1年生から5年生までの「お客さん」が楽しむためには、どのような遊びやおもちゃづくりなどをさせたらよいのか、その説明をわかりやすくするにはどうすればよいのかなどを考えなければならない。その上、時間や予算などの条件と照らし合わせて考えたり、教師と折衝を行ったりする。この6年生の経験が、中学1年生の社会福祉的な事業所等の利用者の方に喜んでもらうための活動、中学2年生の職場体験、中学3年生の地域貢献活動へとつながるのである。

中学校の活動は、基本的に次のような流れをつくっている。

講演会によって何かに取り組む人の生き方を知る	→	2年生の活動の成果の発表を1年生のときに聞き、イメージ化を図る。3年生の活動の成果の発表を1, 2年生のときに聞き、イメージ化を図る。 1年生は4月当初に、3か年間の活動についてガイダンスを聞き、3年間の活動のイメージをもてるようにする。
		1) 講演で聞いたことから自分がしたいことやすべきこと、できることを考え、地域の事業所、職場、地域貢献できることを自ら選ぶ。 2) 学級を解体し1チームあたり数名で（職場体験は1, 2名）活動を2回以上行う。（1回目の失敗などを解決し2回目に挑む） 3) 活動でわかったこと、ふりかえりを新聞等で表す。 4) 異学年、保護者の方に全体や対面式で発表をする。

中学校の3年間の実践は、社会の中でいかに自分を生かしていくのかを考えること、そしてその考えや願いを実行すること、実行した上で社会における自分のあり方をふりかえることを大切にしている。その活動を支えるのが、地域の方の講演を聞く活動である。ここで、様々な分野で活躍しておられる方々の生き方や考え方に接することによって、自分の生き方を考える機会となる。そのことが、社会に生きる自分についての気づき、社会に貢献しようとする意欲をもつことにつながる。また、11年間の集大成として、これからの暮らしへ発展できるように、自ら考えたことを企画し、計画、準備、折衝を行う活動の場を設定している。小学校6年生で培った力を実際の社会をステージとして活用するようにつなげている。

（文責 高木 敏光）

「保育・生活・総合」において11年間で育てる子どもの姿（イメージ図）

		初等部前期 (幼稚園～小学2年生)	初等部後期 (小学3～5年生)	中等部 小学6年生 中学1～3年生	
対象の広がり（イメージ）	ひと・もの・こと への自分とのかかわり				
	こだわり	もっと知りたいなあ。やってみてほしいなあ。		下級生を楽しませるようなお店を開いてみたい。	
				地域の人のために、自分ができたいことを考えたい。	
			自分のしたいことに基づいた興味・関心		人のためにしたいことに基づいた興味・関心
追求の広がり（イメージ）	かかわりあい （学びの対象）	自分身近な人 友だち・保育者・家族	地域のおじさん・おばさん	障害のある人々	観光客
		安心感の中に充実感を見出せる関係性の中での学び		小学1～5年生	職場体験先の人々
			緊張感の中に充実感を見出せる関係性の中での学び		
追求の広がり（イメージ）	仲間とのかかわりあい （学習集団）	一緒にしてみよう！	同じことを、一緒に調べようよ。	私たちがすべきことは、何だろうか。	
		自分の目的にあった仲間とともに【協力】		ともに課題を追求する仲間とともに【協働】	
			ともに分かり合いながらすすんでいく仲間とともに【協調】		
追求の広がり（イメージ）	ふりかえり	自分ってすごい！	よくやった！	みんなで考えたよ！	みんなであつたよ！
		満足感のあるふりかえり		自己存在感・社会貢献を感じるふりかえり	
			所属感を感じるふりかえり		
具体的な学習活動 ※【 】内は、期待したい 子どものふりかえりの例		<ul style="list-style-type: none"> ○ 町たんけん【地域のおじさんやおばさんに色々教えてもらったなあ。】 ○ 季節の自然環境を楽しむ【こんな楽しい遊びを見つけたよ。】 ○ 友だちとともに【楽しい遊びがいっぱいできたなあ。もっとしてみたいなあ。】 ○ 松江ガイド【観光客に自分たちで調べた松江のことをガイドできたぞ。】 ○ 障害のある方々との交流【みんなで考えたことで楽しんでくれたなあ。】 ○ キムチ大作戦【みんなで育てた白菜を地域の人がおいしいキムチにできた。】 ○ 全校活動【子どものお店】【一〇五年生のお客さんのために、みんなが楽しめるお店を企画できたなあ。もっと楽しませるために、何が必要かなあ。】 ○ 社会参加活動【地域の中で様々な立場の人のために自分の力を生かした。】 ○ 職場体験【お客さんや職場の方々のために自分は役に立った。】 ○ さまざまな生き方を学ぶ【事業所で人々を喜ばせることができた。】 			